

# (仮称) 旧国立駅舎東西広場等整備に関する整備基本方針の構成について

## 1. これまでの経緯と今後の進め方

国立駅周辺は、大正時代に開発され国立を象徴する都市空間が形成されました。近年では、JR中央線の連続立体交差事業契機として、旧国立駅舎の移築など国立駅前のまちづくりに関して様々な取組を進めています。今後、東日本旅客鉄道（株）と交換後に旧国立駅舎の東西の土地を広場として整備し、ロータリーにある円形公園を再整備するために、基本方針を定めます。

これまでの取組み	<b>■まちづくり基本計画 (2009)</b>	国立駅周辺のまちづくりの基本的な考え方を示すものとして、まちづくり基本計画を策定しました。
	<b>■国立駅周辺まちづくり会議 (2010～2014)</b>	まちづくり基本計画に基づいて、専門家、市民、関係機関などがまち育て・景観・交通の部会ごとに国立駅周辺のまちづくりについて包括的に検討をしてきました。
	<b>■旧国立駅舎運営連絡会 (2019～)</b>	学識経験者や市民委員で構成され、年に4回程度、旧国立駅舎の管理運営、活用に関する検討を行っています。今後も国立市と深く連携し、実践も交えながら、整備から整備後の管理運営まで駅前一体の価値向上について検討を進めていきます。
	<b>■旧国立駅舎の再築 (2020)</b>	旧国立駅舎活用方針や、旧国立駅舎運営連絡会などでの検討結果を踏まえ、昨年度旧国立駅舎が再築、オープンしました。
東西広場等の整備に向けた今後の取組み	<b>■市民意見アンケート (2021)</b>	4月のアンケートでは、駅前に関心のある方を対象に整備イメージを把握し、11月の無作為抽出の市民を対象としたアンケートでは整備内容などについてご意見をいただく予定です。
	<b>■審査委員会の立ち上げ (2021)</b>	東西広場・円形公園の設計・施工を担うパートナー選定のため、都市計画、建築や景観などの学識経験者で構成する審査委員会を立ち上げます。
	<b>■整備基本方針の策定 (2021)</b>	東西広場、円形公園のデザインの方針や、旧国立駅舎含む国立駅前一体の整備コンセプトを示し、設計・施工の前提条件を共有します。
	<b>■基本設計 (2023)</b>	東西広場と円形公園の整備に向けて、空間イメージを具体化し基本となるプランを設計します。
	<b>■実施設計 (2024)</b>	工事ができるように、基本設計で検討したプランをより詳しく設計し、必要な材料や工事費などを検討します。
	<b>■工事 (2025)</b>	実施設計に基づき、工事を行います。
	<b>■オープン (予定) (2026)</b>	国立駅の開業100年となる2026年に東西広場及び円形公園のオープンを予定しています。

## 2. 計画区域

整備基本方針では、東西広場及び円形公園の整備の基本的な方向性を示すとともに、広場整備による効果の大きな周辺市街地として駅前広場も含めて国立駅南口の顔となる範囲を対象とします。



## 3. 整備基本方針案の構成

管理及び活用を見据えながら広場等の整備の方向性を整理し、設計・施工にあたって基本となる考え方を示します。さらに、整備以降の空間の有効活用も想定したロードマップを分かりやすく共有できるようにします。

